



「as human, for human」 の伝統

パラマウントベッドホールディングス株式会社

代表取締役社長 木村 恭介

本誌を読まれる皆様は、弊社「パラマウントベッド」について、ほとんどお知りにならないのではないかと思いますので、この場をお借りいたしまして、少しPRをさせていただきたいと思います。

弊社グループの歴史は終戦直後の1950年、私の父である故木村隆輔が医療用ベッドの専門メーカーとして「木村寝台工業株式会社」を設立したことからスタートしました。以来60年余にわたり、医療施設や高齢者施設、在宅介護の現場などでご使用いただく製品を中心に開発、販売してまいりました。近年は、福祉用具レンタル卸事業やベッド等のメンテナンスサービス事業など、周辺ビジネスも拡大させております。

創業者は、戦争で焼失しなければ、酒屋の跡取りでしたので、ベッドの製造方法や販売方法、ましてや医療に関しては全くの素人でした。それが、初めてものづくりに挑戦したのですから、苦勞の連続だったと聞いています。製品開発に当たりましては、「現場に学ぶ」の精神で、数多くの医療関係者の方々から非常にたくさんのご助言をいただいたようです。

そして1962年には、国産初となる電動式の医療用ベッドを開発するまでになり、ここから、弊社と電動モーターとの歴史が始まりました。最初は日立社製のACモーターを使用しました。工業機械用のベルトドライブ方式のモーターで、動力を伝達することが目的であったため音が高く、そのうえ安心して継続使用できる安定性もなかったようです。実用化は困難視されていたものの、新制御技術の開発等によって解決してきたと聞いております。

その後、電動式のベッドは大病院など一部の限られた施設では導入されてきたものの、本格的に普及するようになるのは、それから30年近く後のことになりました。きっかけとなったのは、国が策定した1990年からの「高齢者保健福祉10ヵ年戦略(ゴールドプラン)」です。これによって、老人保健施設の建設ラッシュが起これ、これらに電動ベッドが数多く納入されました。そして第2の転機は2000年、介護保険制度の施行です。介護用ベッドのレンタル市場が急拡大し、在宅介護の現場にも電動式の介護ベッドの普及が始まりました。

弊社と愛知電機株式会社様とのお付き合いは、意外に新しく、1996年に新発売した在宅ケアベッド「キューマアウラベッド」において、モーター等を供給していただいたことからです。今日までの間、良好な関係を築いてこられましたことにつきまして、関係各位に感謝申し上げます。

さて、皆様は「得意澹然 失意泰然」という言葉をご存知でしょうか。

明(中国)の崔後渠という人の「六然訓」の最後の2行で、「調子のよいときにおごることなく淡々と、うまくいかないときには焦らずゆったりとした気持ちで」という意味です。弊社創業者が好んで引用しておりました。一人で会社を興し、一代で成長させてきたのですから、時として自らを戒める考えがあったのだと思います。

会社はその後、兄が継ぎ、私で3代目となりますが、弊社の歴史も常に順風満帆であったわけではありません。制度改正等によって、ベッドの販売が激減し、大きな打撃を受けたこともあります。しかしながら、「失意」の中、社員の努力や、さまざまな施策の実施、外的環境の好転、そしてなにより、よい取引先に恵まれたことによって、難局を乗り越えてまいりました。いまは「得意」の中にあるといえるかもしれませんが、謙虚さを失ってはいけなさと、肝に銘じております。

私どもの製品を使用される方のほとんどは、病気やけがなど、さまざまな理由で身体的に不自由さが生じている方です。そうした方々の苦痛や不便さが少しでも多く取り除かれる製品を目指して努力しているつもりです。しかし、まだこれで完成形、100%満足ということはありません。創業以来の伝統となった「現場に学ぶ」精神で、果たしてその商品がご利用者のためになっているのか、きちんと検証しながら新たな製品を開発し、ものづくりを通じて、少しでも社会のお役に立ちたいと考えています。

ものづくりをする会社においては、まず人を作らなければよいものは出来ないと 생각합니다。会社の生み出した製品は、その会社で働く人を映す鏡です。だからこそよりよい製品(人)を作りたいと思っています。「as human, for human(人として、人のために)」を企業スローガンに、これからも皆様から必要とされる企業であることを目指してまいります。関係者の皆様のご協力をお願いいたします。